

野鳥の逃避きよりの研究

熊本市立城山小学校 5年 中村 祐響

1 研究の目的

春から初夏にかけて、家の庭にたくさん来てくれていた野鳥たちにえさをやろうとしたが、いつも近づくのと逃げてしまった。そこで、自然の中で生活している野鳥とはどのくらいの距離まで近づく事ができるのか知りたいと思い、人が近づくと鳥などが危険を感じて逃げ去るまでの距離（逃避距離）をこの夏休みを使って調べようと思った。

2 研究の方法

(1) 野鳥の観察日記をつける。

- ① 夏休み期間中（7月21日～8月23日）に早朝・昼・夕方といろいろな時間帯に家の近所にどんな鳥がいるか観察する。
- ② 野鳥を確認したら、ゆっくり近づいて行き、どの時点で飛び去るか測定する。逃げるまでの距離の測定には、自分の歩幅（67cm）を利用する。

(2) 野鳥アルバムを作る。

- ① 野鳥を観察する時に野鳥の写真を撮り、鳥図鑑で調べる。うまく写真が撮れない場合は、図鑑を写してノートに貼り付ける。

(3) 野鳥マップを作る。

- ① 野鳥の観察日記や野鳥アルバムを作る際にどんな鳥がいつ、どんな場所に居たかを地図上に記す。

3 研究の結果

(1) 野鳥の観察日記

野鳥の観察日記からわかるように、早朝や夕方には多くの野鳥を観察することができたが、猛暑日や雨の日はあまり野鳥を見かけなかった。その観察できた野鳥の中で、地面や畑におりて来ている小型の鳥の逃避距離は、大体10m以内で、中・大型になるほど長かった。電線や屋根にとまっている鳥は、人が近づいてもなかなか逃げなかった。また、川や水田にいた中・大型の鳥は、全部ではないが、水辺に人が近づいても、飛び立つまで時間がかかった。

(2) 野鳥アルバム

野鳥アルバムから分かるようにこの研究で観察できた野鳥はスズメ・アオサギ・ダイサギ・ハシボソガラス・ハシブトガラス・カルガモ・ムクドリ・ハクセキレイ・ドバト・ヤマガラ・ツバメである。

(3) 野鳥マップ

自然豊かな城山校区では、畑・山・川などで多くの野鳥が生活していた。

4 研究の考察

自然豊かなこの地域では、一年を通して多くの野鳥を見ることが出来る。人の住んでいる場所の近くに居るためか、地面まで降りている小型の野鳥の逃避距離は10m以内のものが多く、人に馴れているように思えた。また、大型のアオサギなどは体が重いので、逃げにくくなるためか、30mほどの逃避距離があり、用心深いことがわかった。人よりも高い場所（電線や屋根など）や、人が近づきにくい場所（川や水田など）に居る鳥は、逃げにくかった事がわかった。金峰山で出会ったヤマガラが、直接手から落花生を食べに来てくれたのが嬉しかった。もっと、野鳥と仲良くなれるように逃避距離が縮まればいいと思った。

野鳥たちは、季節や天気、気温などによって、活動に違いがあることも分かったので、そのことを考えながら、これからの観察を続けたい。